

目 次

部 歌	古林 先生	1
プノンペンの思い出	学20 北野 誠良	2
	学 1 山田 常雄	4
	学 5 野村 弘	4
	学11 平井 洋	4
	学14 井上 清	4
	新 3 友繁 忠男	5
	新 5 前田 弘義	5
	新 8 村岡 英樹	5
	新 8 宇賀 史郎	6
現 況	新 8 太田 讓	6
	新 9 酒井 孝栄	7
水泳医学の展望	新 9 野田 浩志	9
空間と時間	新10 山田 貴彦	12
駄文温泉のプール合宿記	新10 岡田 重義	13
	新11 林 荘一郎	15
雑 感	新11 丸山 卓也	16
プールのマリア様	新11 荒井 康之	17
ある告白	新11 酒井 紀年	18
シーズン・イン三ヶ月		19
	学11 平井 洋	21
市大戦戦績補追		24
現役部員ベストタイム		25
今年度スケジュール		26
編集後記		27
凌泳会会員名簿（昭和35年5月現在）		29

部 歌

古林先生作詞

一、まや六甲に抱かれて
こと六甲台の水清し
ちぬの浦和をみおろして
シブキをあげる健男児

二、フリー プレスト バタフライ
バツク リレー ポロまでも
凌泳健児の意気高し
いざや競わん腕を侮し

三、あんなつかしの水泳部
六甲台のプール辺に
月見の宴で泳ぎやめ
くる夏まつていきりたつ

プノンペンの思い出

学20 北野誠良

海外生活の思い出など何でも良いから投稿せよとの事ですので、昭和32年の暮迄約2年半を過ぎた金辺（プノベン）の思い出を2、3書かせて貰います。

当時は全くつらいつらいと日本人旅行者が通過する毎に愚痴をこぼしていた金辺生活も3年後の今では、何か懐しい気持が先立つ様で、不思議ですが、其の原因の第1はカンボジアが大変な親日国であつて、対日感情が非常に良かった事これだと思ひます。仏領印度支那時代80年に亘る植民地時代から解放され独立（1949）したのも世界の趨勢ではありましようが、直接のきっかけは第2次世界大戦中の日本軍の仏印平和進駐であり、“日本軍のお陰で独立できた”という意識を彼等の多くの人が今尚抱いて居るのも事実です。現地の言葉はカンボジア語、仏語、ベトナム語、長州語、広東語と種々雑多で、英語は殆んど通せず、赴任当時は英語の片言しか判らぬ私には、全く不自由な土地にて、早く通訳をと探して居た訳です。ある日、宿屋の食堂で朝食（石の様に堅いフランスパンにコーヒーと目玉といつた処ですが野生の鶏の卵は大分味がおちます）をして居ると1人の現地人がやつて来て「日本語が出来るから使つてくれませんか」との事、こんな土地に日本語を話す人間が居るのかと不思議に思ひ、色々と事情を聞くと、昔日本軍で兵長の階級で働いていたが、終戦後に、日本人に協力したかどで西貢（サイゴン）のプリズンに6年近くほうりこまれ、其の間に妻君に死別したとの事、全く気毒な身の上、早速当社で働いて貰う事になつた訳ですが、彼は今も元気で運転手兼通訳として活躍しております。その後でも彼程ではありませんが片言の日本語を話す現地人に少なからず出会いましたが、言葉と国力との関係等興味深い問題です。また対日感情が良いと言う愉快的な思い出の1つにこんな事がありました。ある華商の得意先が、woolen mixed Blanket を輸入通関しようとした処、税関でウールが入っていない

との理由で現物を没収されようとした訳です。驚ろいた華商は早速私に税関へ立会いに行つてくれという訳で出がけた処、マツナで現品の小片を焼き、匂をかいで識別し、ウールの匂いが無いからこれは、ウールが入っていないの一点ばかり、書類はすでに税関長の方へ廻してあるから向うで話をしてくれとの事です。早速その日の午後税関長に面談（例の元日本兵を通訳として）しましたが仲々強硬です。スフ90%の元布で字に書けばwoolen mixed Blanketですが、ウールが入っているかどうか、こちらもその道の専門家でなく、全く自信のない話ですが、日本の権威ある試験所の証明をとりよせるからと自信ありげな強硬な甲入れをしましたが仲々聞き入れません。しばらくしてベラベラベラベラとしやべた事を通訳の口から聞くと「あなたは日本人だから特別に最初の通関を許す。ただし華商はこれこれの罰金を払う事、普通の華商がここへ来たのなら勿論現品は全部没収の上、ずつと重い罰金を課すことになるはずだ」ということです。全く開いた口がふさがらぬ思いでしたが民族意識の高まつた土地での華商の苦しみと共に親日国の有難さを身に泌みて感じさせられた思出です。今一つ当時政府の華商圧迫政策の一つとして麻雀の禁止令が出されました、それ以前はホテルというホテルは夜になると麻雀の牌の音で夜通しやかましい事、あれが麻雀の醍醐味なのでしょうが、丁度日本のパチンコ屋程度の騒々しさです。支那式のパイ、日本の倍位の大きさ、それを木卓の上でかき廻すわけです。禁止令が発布された途端、誰一人やるものもありません。聞くところによれると罰則は体刑との事、なる程とうなずけた訳ですが麻雀の道具を持つている丈でも厳罰に処せられるとの事です。私達日本商社駐在員（当時四、五人ほどでした）も時にはテーブルを囲む事を唯一の娯楽としていたわけですが、道具さえ供してくれません。それでも親日国のこと、何とかなるだる位の処で、どこからか探してきた牌でホテルでやつている処を巡廻中の巡査に踏み込まれてしまった訳です。踏み込まれたのは事実ですが、窓をあけたままジャラジャラオープンでやつていた訳、巡査もこれを見逃す訳に行かなかつたので

しょう。何の娯楽もないここでは、これ位が我々の唯一の楽しみなんだ。また金銭はかけていないから大目に見てくれと何だかだと押し問答しましたが、意外に強硬、遂にその晩は散会となりましたが、翌日警察へ出頭しろとの事です。翌日一応形式的の調書を取られました。この時も日本人だからという理由で無罪放免事なきを得ました。然し一時はパスポートを取り上げられ三日後に裁判所で裁判官から直々、今後はやらないという条件付で返して貰う迄はいささか頭が痛かつたのも今となつては愉快的な思出の一つです。この事件後はさすがに日本人で麻雀をする人はありませんが、その道の猛者達は正月元旦に大使館で御馳走になつたあと、治外法権を利用、年に一度の手合わせをするのが好きたりになつている様です。

学 1 山 田 常 雄

小生、今回神戸地方裁判所に転任になりました。近くへ参りましたから時々ブルへ伺おうと思つています。

学 5 野 村 弘

昨年来、オールドカツバが集まり、下手なゴルフをやつて旧交を暖めて居ます。集るは小山賢之助、草野嘉一、板野龜八郎と小生、本年はブルに集り、昔話をしたと思います。

学 1 1 平 井 洋

11月28日、小生、羽田を発ちブラジルのサンパウロに赴任致します。2～3年は帰れないと思いますが、留守中はよろしく。ブラジルは水泳にはいい処らしく、パンツ2枚用意しました。皆さんによろしく、(昨年いただきましたお葉書より)

学 1 4 井 上 清

先般来た記会社に出ています。近くなつたのですが、土曜日は岡山へ帰る事が多いので直接の応援は出来ませんが、皆様の健闘を祈ります。

大阪市北区芝田村56

東邦商工株式会社 (34) 0122
3902

新 3 友 繁 忠 男

相も変わらず多事多忙、身分はエラクナラヌトモ仕事ダケハエラクナル一方便です。

新 5 前 田 弘 義

小生昨年夏以来一寸病気を致し、未だにぶらぶら致しておりますが、今年はブールへも寄せていただけることと思います。

新 8 村 岡 英 樹

月給ヲ貰ツテカラ未ダ三日目ダト言ウノニ余ストコロ三分ノ一ト言ウノガ現状デアル。

小生ハ今迄目モ具レナカツタ、カーテンヤ敷物ヲ取扱ウ課ニ配属サレ、言ワバ丁稚トシテノ毎日ヲ送ツテイル。直接ノ親分デアルタフナ課長代理ガ小生ノ行末ヲ慮ツテカ、トコトン迄可愛ガツテ具レルノデ、同情ノ言葉ヲ掛ケテ具レルヒトモ無イ訳デハ無イガ、御当人ハサシテ気ニモ留メズ、毎日夜、モリモリト笑顔デ、時ニハ山積セル書類ヲ前ニシブツ面デ働イテイル。流石ハ六甲台デ泳イダ男ダト言ワネバナナルマイ。

水ノ縁トハ不思議ナモノデ、小生トシテハ二度目ノ水泳部生活ガ始マロウトシテイル。部員ノ中 20代ノ若手(京大バタノ山口サンモツノ1人)ガ居ナイ訳デハナイガ、ウチノポイントゲッターハ、30半バノイカツイオツサン連デアツテ、ブレデ3分割ツタリ、バタ百ヲ17、8秒デ泳イダリスル御人モアルラシク、ソレガ長水路ダカラ頭ニクル。小生モ何レカ暇ヲ見付ケテ若サヲ堅持シタイ。

先日、オ得意先ノ女ノ子タチニ、マア、アノヒト可愛ラシイネエト言ワレテ顔ヲ赫ラメタ小生デハアルガ、現役時代ト同ジ気持デ、バリバリト働ラキタイ。

諸君モ競泳ニ、ポロニ、精出サレンコトヲ切望スル。

名マネージャー栄川氏から受け継いで以来三年間に亘つて、輝しき歴史ある水泳部のマネージャーという大役をまがりなりにも務め終わりましたが、これも先輩各位の御厚情溢るる御支援、御指導の御陰だと深く感謝致しております。また、その期間中先輩諸氏におかけした数々の御無礼、御迷惑を心からお詫び致しますと共に、今後とも相変りませず御指導、御鞭達下さいます様願ひ上げます。

x x x x x x x

夢多きハイテーンから20代にかけての大学生活4年間を、楽しい雰囲気のパール端で送つてきたが、いまや、泳ぎたくなる五月晴れの昼日中にも蛍光灯が輝き、タイプと電話が騒々しい部屋の中で机に向つて過している。仕事が暇な時には自由気儘な学生生活よもう一度と思う事もあるが、早く仕事に馴れ一人前になろうと努めている。ところが現実には意のままにならず、ソロバンに悩み、電話の応答に困惑しており、仕事の十中八九までも隣席の先輩に教えを乞つている様な次第で、成行に任す他手は無さそうである。

x x x x x x x

「凌泳発行の為原稿を書け」との由、今までは同じ言葉で先輩諸氏に無理を言つて来た身、「何も書く事はない」と断る訳にもいかず書き出したが、未だ学生気分抜けの抜けない社会人一年生、現役諸君に出す意見も想出も無く、今シーズンの水泳部の活躍を期待するのみである。

現 況

新 8 太 田 譲

現在、四日市の製油所で6カ月の実習教育を受けております。最近では三交代勤務もやり、油じみた作業衣にも大分なじんでまいりました。寮生活は楽しいですが、なかなか自分一人の時間を持たないのが欠点で、殆んど毎日のようにマージャンのカモを演じております。時々、プールサイドや練習風景、又、三宮の夜景がまぶたに浮んで来ては、無性になつかしく、とんで帰りたいような

気持になることがあります。幸い、海岸に近いので夏には現役の連中に負けぬ位、うんと焼けて帰りたいと思っております。今年はポロも仲々好調のようで、良いニュースを楽しみにしております。

新9 主将 酒井 孝 栄

初夏の日射しがさんさんと輝いている水面に思い切り飛び込む。身体がすつきりする。時には又雨のふりそそぐ水面に、覚悟をきめて飛びこまねばならない時もある。こんな時には水泳部に入つたことを少々後悔するのが常である。大学に入つて早四年目、今年はいよいよ主将の重責を荷負うこととなつた。これまでの部員としての立場に、更に部の統率者としての任務が加わつたのであるが、去年末の経験もあり、又野田君も居るので、何とかこなして行ける自信がある。

今年の最大目標は、三商大戦における完全優勝である。例年競泳部門においては圧倒的な勝利を掌握するのであるが、水球においては幾度か苦杯を喫している。去年以来、目に見えて水球部門がその力を増して来たのであるが、水球の基礎年を終えて今年はいよいよ飛躍的發展への第一段階に至つたと言える。その一つの足掛りが打倒一橋大であり、他の一つが関西学生水球代表チームとして全日本学生水球戦に出場することである。

まず水球陣営に関する報告。

昨年相当活躍して頂いたF.W.の宇賀、奥野、B.の村岡、太田の四氏が卒業されたのはいささか残念(?)ですが、その穴埋めとしては前衛には酒井、野田、井上、高岡、浅間を配し、後衛には岡田、柳本、米田、萩原、平岡、キーパーには去年以来の竹元を配するという陣営でチーム編成を行なう予定でいる。その他今後が有望とおぼしき新人が多数でているのは喜ばしいことです。今年は4月17日～24日までの伊豆峰温泉プールでの合宿練習の成果が大いに上がり、競泳は勿論、水球においても、相当得る所があつた。これを今後の練習にて、更に一層のみがきをかけ、まず緒戦の対京大ポロ戦に当たりたいものと思つています。今年はトロフィーもあることだし何としても京大に勝ちたい。そしてその勢いをもつて今年一年の水球を乗り切つて行かねばならない。それが

昨年コーチ役を親切に引受けて下さった植中氏に対する、又今年卒業された先輩の方々に対する、唯一のお返し物だし、更にはこれまでこの水泳部を育てて来て下さった諸先輩の方々に対する礼儀でもある。今年の水球に関する目標の一つに去年以後の練習方法の確立がある。今年一杯出来る限り多種の練習方法を試み、実践に役立つ練習を会得する積りである。それが今年の四年生の任務であり、今後の水球部門での発展の基礎を築くものであらうと思う。

次に競泳部門に関しての報告。

まずフリー陣であるが、これには去年以来の野田、酒井、高岡、浅間、米田等が居るが、今後が有望と見られる新入部員の少いのが残念である。これは今年だけでなく国立大学の悲しき運命として例年見られる現象であるが、今年は特にひどい様に思える。この有望新人の進出がないことに加え、去年のエース高岡(3)が座骨神経痛とかでここ当分練習が出来ない状態である。最悪時には、今年一杯駄目かも知れない、米田(3)も又不調である。ただ唯一の光明は浅間(3)の異常なる成長である。400には早くも5分50秒台を記録、今年のロング陣を荷負うホープとなつている。その快調ぶりには部員一同“あれよあれよ”である。野田(4)もベテランらしく調子を上げて来ているので去年と同水準には充分到達出来る。シヨートに活路を見い出してくれるであらう。

次にプレスト陣。

ここは人材が多種で心強い限りである。去年以上の成長を見せている丸山(2)今年著しい進境をなしている山田(3)、調子を上げてきている染矢(3)、萩原(3)。この4人はドングリの背くらべで、現在はいずれも二百3分10秒前後、今後が大いに楽しみである。この陣営の充実が今年一年の試合成績の鍵をにきるのではないかと思つている。

次にバツク陣。

ここには去年高岡に次ぐポイントゲッターであつた井上(3)がいる。彼独特のスローテンポの泳法ながら、先輩岡村氏の域まで達しそうであり、関西国公立では第一人者といえる。その他、マネージャーをやつていた岡田(3)が急激な上昇カーブをたどつているので、これも又一つの楽しみである。

最後にバタフライ陣であるが、ここには去年完全転向をやつた私と進況著し

い柳本(3)、今後有望とみられる窪田(2)の三人がいる。柳本は、今年は例年になく張切つており、彼のタフさをもつてすれば、二百三分フラフラの所には行くであろう。私も尻に火がついてこの所苦境にいるが、しかしこのことは練習熱心な新人窪田の存在と共に、喜ばしいことの一つである。

以上の報告で今年の競泳部門の紹介を終わりとしますが、今年の最大の強敵は京大であろう。去年以来ぐんぐんと力をつけてきたので、今年は相当頑張らなくては、関西国公立第一位の地位から落ちてしまう。しかし今年の部員は、去年と同様しつかりと団結しておること、練習熱心であることが心強い支柱となり十分な成績を上げて一シーズンを終わってくれること、信じて疑わない。

最後に、諸先輩の方々にも、これまで同様、暖かい目で私達後輩を見まもって下さる様、お願い致します。又、時には六甲プールにやつて、私達と一緒に泳いで下さい。

水泳医学の展望

新 9 野 田 浩 志

最近、水泳に限らずあらゆるスポーツが、以前には限界とされていた線を突破しているという事実は、何に起因するものであろうか。この機会にそれを追求し、明らかにすることは有意義であると考ええる。

確かに人間の体位の向上も一つの要因であることは否定しえないが、以前にはスポーツとは縁遠い関係にあつた科学が、その成課をスポーツに採り入れられたことであろう。

このことは、単に最高記録の更新だけではなく、日常の練習に於ても、コンディションの調整に役立ちうるものである。「その不調は精神的なものだ」とは、あまりにも割切つて述べられすぎてはいなかつただろうか。その前に、科学的手段によつて、早期に現われる疲労の徴候を発見したり、疲労の回復をはかること、更にはスタミナの補強の方法(試合直前に注射をすることに、米国選手は疑問を持っていたが)を講ずることの方が、はるかに有効であるはずだ。

我部にあつても、数年前からは合宿の食事の研究、練習方法の研究がなされ一段と向上を見せたし、一部の者は自己の記録の推移を図表にして、研究し成果をあげている。こうした努力が広範囲に拡大され、心理的局面と相俟つて記録の向上に導くものと確信する。

水泳から受動的に働きかけられる衝動（例えば食欲としてのホルモン料理、睡眠）により行動するよりも、むしろ、能動的に水泳に働きかけてゆかねばなるまい。

水泳に明け、水泳に暮れる河童子が深く考えてみなければならない問題である。こゝに水泳医学の実情を展望してみた。

広くスポーツ医学としては、今世紀初期の1925年に起源をもっている。この学問は、医学ばかりでなく、物理学、心理学、その他多くの科学の総合された力を必要とする。例えば、生理学の方面からは筋肉硬化をもたらす過労について、或は筋肉弛緩等を維持する能力について解決の手段が提供される。物理学、解剖学からは、筋肉のテコ作用とか種々の動作に於ける最も効果的なテコの角度について、心理学は練習、試合時の心理状態の記録やスポーツの効果を人格や性格から扱っている。栄養学は、運動選手に必要なカロリー（水泳は一日4000カロリーを必要とする）の計算と献立をする。医学的には、スポーツ障害の予防と治療とか、激しく泳いだり、練習量の適量を定めることの分野を担当しているのである。

さて、メルボルンオリンピック以来、その水泳指導法が全世界より注目されているオーストラリアに於て、水泳医学はどのような発展をしているのであろうか。幸いオーストラリア水泳のプロコーチであるフオーブス・カーライルが日水連機関紙「水泳」に寄稿しておられるので簡単に紹介しよう。

彼の実験室はプールと併設され、常に水泳と結びついた研究がなされ、有用な、直接的な報告と、指導が供給されるのである。その調査項目は次の通りである。

1. 体格測定……身長、体重、体格指数その他の体格測定の結果から、特別の水泳選手と一般人との比較
1. 肺活量……練習は肺活量を増すけれども超過練習は逆に減少させる。

1. 心電測定……心臓の周期の電気変動の記録を一般人と比較し、疲労の影響を調べる。
1. 心臓計量測定……脈圧変化を記録し、心臓活動の質と力を調べる。その結果、苦と超過練習を示すことが出来る。
1. 酸素色素測定……身体的努力が、血液の中の染色体細胞濃度を低下させる。
1. 心理的的局面……日常の心理状況の変化を記録して、早期に動揺を防止したり、逆に精神的援助をする。
1. 仕事量測定……ダツシユによる仕事量の測定結果は、爆発的力量的の判定資料となり、この数値の高いことは、スポーツに於て優れている。
1. 鼓動数と血圧検査……肉体的に調整された良好の状態や、超過練習時の状態や、高血圧による病的な状態を区分して、運動後に変化するところの血圧、鼓動数とを比較する。

以上がその主たるものである。この様な努力が、オーストラリア水泳の今日ある一原動力なのであろう。勿論この種の研究が行われているのは、オーストラリアに限らない。そのうち、アメリカ、ソ連の研究は、相当の成果を上げていようである。

一方、我国に於てはどうであろうか。水泳と科学的研究との間の関係は伝統的な練習方法が災いしてかあまり見られなかつたように思う。然し最近水連に於ても医事委員会の方で積極的に研究されているようである。手元の資料では、昨年春期競泳強化合宿参加選手を対象に、諸種の測定調整が行われている。オーストラリアの例と重複するところもあるので、そのうち疲労度の測定方法が参考になると思われるので紹介してみたい。

1. 尿の酸度測定……疲労すると尿は酸性に傾く、このテストは PM 試験紙を使用する。
1. ドラジオ反応……尿又は骨髓液にチオニン色素溶液及モリブデン酸アンモン溶液を加えると色素は完全に沈澱するが、疲労した人では沈澱は阻止され、液柱に色がつく。
1. 尿蛋白検査……ブルフオサリチル酸スピーグレル氏試薬を使用する。疲

劣すると疲労性蛋白が認められる。

1. フリーカーテスト……電気閃光を發し、眼のチラツキ反応により精神的疲労が測定される。中等度の運動では上昇、過勞では低下する。

1. 睡眠状況……毎朝睡眠状況を記録する。

等によつてコンディションの調整がはかられるのである。

以上我々からすれば、いくらか専門的にすぎたきらいはあるし又現実に実施することも殆んど不可能に近い。ましてや我々の記録が既に限界に達し、あとは科学的方法によらねばならない、とは誇張に過ぎるであろう。それにも拘らず、上述のあるもの（体格測定、肺活量、脈圧変化、尿の酸度、睡眠状況）は不可能なことではない。更に六甲台プールの水溫と記録の変化との関係等は、最も手近かな方法であり、かくすることによつて、いくらかでも記録の向上に、部員の健康維持に役立ちうるのではないだろうか。

この実現の爲には、部員一致協力して、忍耐強く続けらねばならないであろう。恐らくは、一年、二年で達成されるものではない。その前に泳法の研究、練習態度等々現状に不足するものの完成に力が注がれるべきものかも知れない。敢えて一文を草した次第である。

空間と時間

新10 山田 貴彦

凡そ我々が社会現象一般を考える時に、この「空間と時間」すなわち「場所と時」とを忘れる事は出来ない。「今、此処に俺がいる」と言う事は何の不思議もない当り前の事の様に見える。しかし實際そんなに簡単に考えて良いのだろうか。此の広い世界の「此処」と言う一点、無限に続く時間の「今」と言う一瞬、此の両者が偶然にも一致した「今・此処」と言うものは、如何なる見方、考え方をしても絶対に二つとないものなのである。この世で起こる全ての事象は必ずこの「空間と時間」というものから有形、無形の制約を受けているのである。がこの「空間と時間」から或る種の制約を受けながらも、それを超

越して語る事の出来るものもある。文芸もその一つだろう。源氏物語も、モナ・リザも何時如何なる所に於いても我々は語り得る。がこれはその主体となる個人の主観的な要素に極めて強い影響を受けている事は否めない。

又巨人と南海とはどちらが強いやろうとも言える。が巨人が弱くつても南海がより弱ければ、巨人は勝つだろう。従つてどちらが強いかなどと言うことは、単に相対的なものにすぎないわけである。

此の主観的、相対的と言う極めてあやふやなものを除いて、客観的、絶対的なもので語れるものは無いだろうか。ある。その一つに水泳がある。例えば野球とか柔道とかでは、先輩が現役に「大体お前らはなっていない！俺達の時には全国征覇をしたんだぞ！」とハツパをかけた所で、その先輩と現役と、客観的・絶対的には一体どちらが強いのかは、神以外の何者にもわからない。これが「空間と時間」の為せる皮肉なイタツラなのである。所が水泳は違う。今年卒業された村岡さんは昨年の対市大戦200米プレストで3分2秒1の神大記録を樹立した。が我々の内では末だに唯一人としてこれが破れないのである。我々は村岡さんより弱いのである。村岡さんがプールに来て「お前らだらしがないぞ」と怒鳴る時、我々は唯黙つて頭張るより仕方がないわけである。すなわち水泳は「空間と時間」を超越してタイムと言う絶対なもので現わされる「絶対の強さ」に挑戦しているのである。今隣りのコースでせり合っている相手は我々の敵なのではない。彼は絶対の強さに挑戦する我々の相互協力者なのである。「絶対の強さ」に挑戦する、その為の涙ぐまじき迄の努力、自己鍛錬、そこに水泳の意義があるのだ。

逆に考えよう。毎日の苦痛、それは「絶対」に挑戦しているからである。

駄文温泉プール合宿記

新10 岡田重義

Golden Sixty の開幕した本年4月より、映画は2、3の例を除き2ヶ月に1回の割合で70円以下のものしか見ないこと、喰うのは止むを得ないとし

でも、水道も完備しているのだから飲むのを減らすこと、散髪は従来より3割長持ちさせること、教科書の類はなるべく買わないこと等々、新聞の第2面を大きく賑わせた好景気の記事とは全く異なつた決心のもとに、春の合宿への財政的トレーニングに入り、3月中に何とか伊豆で合宿し、帰りも浜松までは汽車で帰れる準備が出来、出発の17日までに、家から貰つた授業料も大蔵省の金庫に入るまでに少々遠まわりをして貰うこととして準備は全く完了した。

出 発

4月17日三宮発21時23分の門司発東京行普通列車で出発することとなり伊豆まで約14時間、この堅いシートの厄介になることとなつた。だが門司から東京までこの汽車で行く人もあるのだからと思つた途端、このシートは御召列車のシートにも勝るように思えてきた。この日、午前中に山陽線加古川、土山間で貨車の転覆事故があつたとかで不通となり汽車はおろか出会う約束の姫路の連中も来ない。予定よりずつと遅れ、8日午前2時頃大阪発。真夜中の見る人の少ない淋しいネオンが何か妙に心に刻み込まれたような感じである。

到 着

伊東からバスにゆれること2時間余。途中で見た海の青さと山の緑が印象的だつた。伊豆国立公園の海岸に沿つた風光明媚な有料道路を疾走し、全国どこでも見られる砂塵舞い上る国道をガタンガタンと揺られると云つた対照の妙を満喫し、資本主義の矛盾を痛感しながら湯気上り湯も清い25mのプールへ到着する。昨年と同じところだけれど、昨年のメンバーはゴツソリと無事卒業され残つて再びここを訪れるのは野田兄と2人だけ。感慨無量である。だが本年は17名という大世帯なので心強い。

起 床

午前7時、網走出身の威勢のよい女中さんにタタキ起される。昨日までならば、今頃はまだ夢の中なのだが外から「プールの水温29度」という声が聞えた途端、目は完全に醒める。さあ泳ぐぞという決意がみなぎるが、残念ながらまず頭に浮んだのは朝飯のオカズのことだつた。

練 習

決めてあつた時間までに一同集合。いつものような遅刻者はない。泳いでい

いても冷たいとかつらいとかいった言葉は六甲のプールのためにだけこの世に存在を許されているのではないかと思える。プールから上ればすぐ横に温泉が湧いている。冷たいはずなんかありはしない。我れ先にとプールへとび込んだり練習量が少なすぎると言つて不平を並べたり、練習が済んだ後でプールに入つて出てこない連中をプールから追い出すのにキャプテンが声をからすなど、とても六甲では想像さえも難しい光景が続出したが、これは練習後すぐ横にある婦人風呂に入るのを常としていた連中に著しかつたようである。

自由時間

夕食後のミーティングから消燈の10時までは自由時間と決まつた。温泉へつかるだけでは勿体ないとノゾキに行くもの、ホールへ女中さんや泊りに来ている美人とダンスをしに行く者、可愛らしい女の子のいる射的屋へ入りびたる者、部屋に残り神戸より持参の愛読書(ドンナ本かはこれを読まれる方が一番よく御存知のはず)を熟読する者、郷里のオ花チャンに便りを書く者等それぞれ有意義に時間を使つたようだ。なかでもダンスは部屋の前の鏡に向い、持ちなれぬクシを手にチツク、ポマードの匂いを短い髪からプンプンさせニソニソと我が晴れ姿に見いる者のかけが絶えなかつたほどの人気だつた。射的屋で少し分無駄玉をうつた揚句に落してきたヨーカン(女中部屋へ持つて行き、神戸大学の人はおとなしいとか、感じがいいとかの月並の外交辞令もことのほかうれしく、いい気になつて居たのも自分一人でもあるまい。

帰 途

27日正午六甲プール集合を約して24日正午に旅館にて解散。思い出多いこのプールを女中さん達に見送られ、「また来てネ」の声をあとに、出発。それぞれ各人のスケジュールに従い、下田へ行く者、天城峠を越す者等三々五々散つて行き、一週間に亘る温泉プール合宿もその幕を閉じたのである。ア、後に残るは思い出だけか。

新 1 1 林 庄 八 郎

前任岡田さんの後を受けて、今年からマネージャーを拝任致しました。入部して末だ二年目で、僕には少々大任すぎると思いましたが、幸い岡田さんの良

き指導と部員一同の理解ある協力を得まして、意を強くして職務に励むことにしました。

あわただしい昨今の下界をはるかに見やりながら、新緑に映える六甲山の許で元気に水泳をやれる我々は卒直に申して幸福だと思います。この上は良き大学生活、部生活にせんが為、大いに努力しようと思っております。

マネージャーという難しい仕事は初めてで、至らぬ事ばかりだと思いますが、よろしく御指導御鞭達下さいます様お願い致します。

雑 感

新 1 1 丸 山 卓 也

僕が水泳部へ入部させていただいてから丁度一年になる。去年の今頃を思い出すと、懐しい事ばかりだ。最初一週間ばかりフリーを泳いだ時は、プールのそばの電柱が近づくのが何よりの慰めであつた。あの頃はただプールの中でもがいていた感じだつた。プレストに転向したものの、練習日誌を見ると200米を3分50秒で泳いでいる。此頃山田さん、染矢さんに大差をつけられ、ずいぶんと情ない思いをした。しかしその後タイムは少しづつ上つていったが何よりも水泳部が好きになつた。裸での男同志が、かくしだてする事なく、面白い事もいい合つたが、いろいろ役に立つ事が多かつた。純情的理論で押し通した井上さん、水泳版1ながらそしらぬ顔でとほける高岡さん、実践的理論の山田さん、控え目ながら要所をつく米田さん、時折思い当る所があるのかニンマリする染矢さん、思いの外純情派の浅間さん、皆、姫路分校におられた頃は色々とお世話になつた。今年もそろそろ各人の理論を展開している。こういつた点昨年と変りないが、今年はどうもプールの外に熱心な女性ファンが、我々部員に熱心な視線を送り、まるで部員を励まし、暖く見守つてくれているように思える。しかし安閑とはしておれない。僕自身について言えば、去年の村岡さんの記録に一步でも近づきたい。ともすれば競争相手のいない姫路分校にあつて、記録が仲々あがらないのが悩みだ。これも心掛け次第ではあるが、それに

33A 35B = 1155

しても難しい事だ。水泳部には何か言い得ぬ良さがある。一年この部で飯をくつたら足は洗えない。今年も数多くの部員が入り、二時半近くになると姿をプールに見せる。昨日の疲れでつらいものもいる。だが、頑張つて泳いで帰る時の風の快さ、体全体に適度に疲れを覚える気持よさ。日一日と自信をつけて立派なスポーツマンになろうではないか。

白鷺城下にて。

プールのマリア様

新11 荒井康之

草深き姫路分校のプールのほとりにも、夏がやつて来た。今まで心なしか寂しそうだつたプール際の雑草も、時おり水面をかすめる一株の風にうれしそうにそよいでいる。こんな季節になると、自然界の動物達は我もの顔に、野に山にとあふれ出す。我等水泳部一同も、これらの自然の鉄則と同じように、きまつて活気づいてくる。プールの水が適温となると好記録が続出してくるのは当然である。が、単にその原因はそれだけではない。他に外的原因が有るのだ。私はそれを、プールの横の運動場へ時折現れる女性群とみている。彼女等の中には、内心気かけながら水泳部を無視している一団もあるが、ある人達は、さりげない風を装つて熱心に我々を観察している。その射るような熱き視線を背に一杯に受けると。どんなボクトツの青年であつても非凡の力を發揮することは理の当然である。私自身このことに気づいたのは、5月上旬であつた。それは天気の良い暖い日だつた。いつになくM君がフンドシの上にきゆうくつそうにパンツを着けている。別段気にもかけなかつたけど、スタート台上にいるM君に冗談まじりにそのわけを聞くと、彼はいみの分らないことをいつてごまかしてしまつた。それを聞きながして練習を行つているうち、プールサイドの鉄条網の外から中を盗みしている女子学生に気づいた。「しまつた。」とばかり思わず自分のフンドシだけの下半身に目をやつたけど、ここに至つては後の祭り。まんまと功者M君に差をつけられてしまつた。以後、部員一同の疑問とし

ているように、この私が対女性関係に於て、はかばかしき進展をみせないのはこのことが大きく原因しているやも知れぬ。

とにかく一人でもプールのそばに来て、我々をながめてくれる女性のいることは有難いことだ。これによつて、どれだけ我々アダム族は元気つけられることよ。おお我等のマリア様よ。あなたの暖き慈愛を我等に与えられんことを。
(アーメン)

あ　　る　　告　　白

新 1 1 酒 井 紀 年

私は中学、高校時代を通じて何も運動をしなかつた。私はそのことが一番くやくしてならなかつた。大学に入つたら何かやろうと思つた。何かやらねば将来に残すものは何一つないと思つたからである。大学時代に何かをしていたという一つの慰めにもなる。私はまあ小さい時から泳ぎは好きだつた(はずだ)。むろん好きと得意とは違ふと思つてもらわねばならない。そこで、まだ忘れることの出来ない4月28日、私はオズオズと入部申込みにいつた。そしてその日、お前泳いでみいと言われて、他人のを借りて水につかつたのである。何か氷水につかつているようで、毛穴がチリチリ痛かつた。よくこんな寒いのに泳ぐものだなあと思つた。岡田さんなんかさもうれしそうに泳ぐのを見て、少々恨めしくもあつた。しかし一年の時は5月はじめの凌泳会総会がすんだ頃までで止めた。父が病気になり、東京へ行つたり、家では最年長者として、母の代りに弟妹の面倒をみななければならなかつたから……。そしてもう一つ、決して無視できない理由がある。それは又、2年になつて再びイチニイチニ出てきた理由にもなる。このように一年間休んでいて又二年になつた4月の終りごろ泳ごうという気が起つたのである。私は何をしても意志力の弱さに屈してしまふ。これで一人前の人間になれるだろうか。何も運動をしたことのなかつた身に、泳ぐということはものすごく負担がかかる。毎日の練習はたしかに苦しい。しかしだからといつてすぐ止めてしまつては、自分ながら自分に嫌惡の情

をもよおす。私は一つはそのために止めた。それからの一年間は自分の良心との斗いであつた。邪心は言う。何であのような苦しみを受けてせねばならぬのかと。良心は言う。しかし、だ、泳ぐことは一度自分で決めたことじゃないか。自分の心に対して恥かしくないのか。他人にそれで大きな顔が出来るのか。お前は大学に何しに来たのか。ただ社会へ通じる道の足がかりにすぎないのか。いやそう考えていたんじゃない。ある物を得ようと思つたんだらう。そして、ある物は水泳部においてこそ得られるものじゃないのか、と。そこで私は又泳ぎはじめた。結局ふり出しに戻つたわけだ。だから苦しみの連続である。この短い日の間に何度か止めようと思つた。今もその考えは頭を去らない。しかしそれに反して私は競泳用のパンツも買つた。バスタオルも新らしいのを母にねだつた。そして又6月5日に間に合うように上下の運動シャツも買つてもらつた。このことは、もう水泳から離れられなくなつて行く証拠じゃないだろうか。私は自分の心の奥でひそかにそう思つて自分を励ますことにする。水泳は苦しいが、そこから何かを見い出す為にならなう。もう決して水泳が好きだとは言わない。何年か後、大学時代に水泳をしたと堂々と人に言える時がくるだらう。又、水泳を通じて知つた先輩、後輩とも笑い話にしてすませるかも知れない。

シーズン・イン三ヶ月

3月26、27の両日わたつて昨年一年間お世話になつたプールの清掃、底に積つた泥の量は三輪トラック一杯分もあるらうか。一年を通じて完全な水の入替えは一度もできなかつたから無理もない話。それでも考えてみればキタナイことだ。近いうちにその筋から水質検査がなされるはず。どんな結果がでることやら。それを見越したわけでもあるまいが、年中水道の水をホースでプールへ流しこもうとのこと。

昨年まで使つていたコースロープも寿命がきて新らしいのを作製、チクワの買出しには昨年8回生の諸氏が大阪の南の端までエツチラオツチラ出かけて下さ

った。我が身が使うわけでもないもののため献身して下さったことは現役の深く感謝しているところであります。おかげで細手ながら立派なものが出来、鮮やかな紅白のコントラストが水面に映えています。

4月10日練習開始。それ以前から自主的にトレーニングに励んだ者もいました。4月18日より一週間伊豆峰温泉プールにて春期合宿、相当の収穫を得ました。昨年からはじめたことですが、シーズン始めにこのような合宿を行なうことは、出発点でガツチリ基礎がためることにより、一シーズンを安定して過せることになり、意義深いものと思っております。

5月3日に総会。御出席の面々は、山田部長、岡本（学12）、榊原（新3）北村（新7）、村岡、宇賀、太田、杉岡（新8）の諸氏。

六甲学舎が相変わらず紅0点で殺風景なのに引きかえ、姫路分校プールのまわりはずいぶんあでやかならしい。姫路勢のタイム上昇率の高いのもムベナル哉。

溝口（新3）、島居（新5）、石本（新6）の各氏が今春華燭の典を挙げられました。島居さんは岡田昌三と改名、新らしき人生に幸あれと部員一同お祈り致します。

一方、顧門の古林先生御母堂ケイ様が5月29日、91才をもって逝去されました。部員一同と共に御冥福をお祈り下さい。

泳の皆さん御元気ですか？ 日本から言つて地球の裏側からメツセージを送ります。南半球は北半球とは丁度真反対の季節になると学んだが、やはり実際に住んでみないとピンときません。私は戦争中濠州アラフラ海の孤島に進駐していたが、そこは南緯7度ぐらいだから夏冬の季節感はなく、年中暑いといった感じのする島でした。ところがここブラジルは試みに地球儀に串をさして日本から突込んだとすると丁度反対側はこのサンパウロ附近に出ます。従つてやはり季節感があり、いまは初冬、即ち日本の11月末に当ります。もつともサンパウロとリオ・デジャネイロでは六甲山位の山の上と下ですから5度から10度くらいは気温差がありサンパウロが寒いときでも、リオは暑いということがあります。先日5月中旬リオに出張した際、かの有名なコパカバーナ海岸に遊びましたが、日本の11月中旬に当るといふのに海水浴をしている人達が相当居ました。その日サンパウロに帰りましたら気温は14度ぐらいでカーデイガンを着なければ寒く、夜は布団に毛布を2枚着て寝る始末です。(夜半は恐らく10度くらいまで下るのでしょう) 昨年の上旬ここサンパウロに赴任してから丁度半年経ちましたが、その間泳いだのは、サントス海岸でたった1回だけです。ブラジルの海水浴場は皆と云つていい程大西洋に面しています。内海では余り泳ぎません。サントスも昔と違つて、今は立派な海水浴場が出来、リオのコパカバーナの隆盛を奪う有様です。海岸には大廈高樓が櫛比し、シーズンには体格のいいパウリスターナ(サンパウロ娘という意味)が兎狭しとばかり余り泳がないでデモつています。私は昔とつた杵束とやらで、勢よく大西洋に泳ぎ入りました。ちよつと大西洋を横断してやる思つたが、少し広すぎるのであきらめて引返しました。

サンパウロにはプールもありますが、皆クラブに所属していて、相当高い入会金を払わないと入れてくれません。たしか5万円位の入会金で、その代り終身会員になれます。われわれ2~3年で内地に帰る弗族にとつて入会金は馬鹿らしいので入るのをやめ、ゴルフクラブの方へ入りました。この4月から始め、丁度1ヶ月位で下手なりに面白くなり始めたところです。曾つての水泳の練習をした調子でやれば忽ち腕を上るところでしょうが、残念ながら余り熱も上ら

ず、大地と格斗したり、空振りの快味を味わっております。運動神経にだけ頼ることは却つていかんという事を最近さとりました（呵々）丁度ボロの練習のようにくり返しくり返し技術をみがくことが肝要のようです。サンパウロは美人が多く、恐らくブエノスアイレス、リオデジャネイロとともに世界でもベスト・テンに入る美人都市でしょう。（私の聞いたところでは匹敵出来るのはメキシコ・シテイとパリ位ではないかと思ひます）ただいかんのは教育程度が全く低く、例えば小学校卒業40%、中学校卒ときたらわずか0.5%以下で日本とはえらい違い。（もつともブラジル全体の比率でサンパウロはもつともいい）ここにブラジルの致命的な弱さがあります。特に数学に弱く、殆んど人は引き算が出来ず、例えば100円で63円の買物をしたとするとおつりに先ず7円を出して70円と唱え、次に10円を3枚出して、100円になつたところでやつとおつりにありつけます。即ち足し算をしてゆく訳です。なにしろ国家予算の8割は軍事費に使いますので文教費には余り予算が廻りません。日本の国はおそらく世界で一番教育制度が完備している国ではないでしょうか？ 教育の重要さをしみじみと感じさせられました。なにしろ国会議員が機関銃を持って自宅を武装しているといった処が残っている国ですからおそれ入ります。自動車の引き逃げ、殺人犯人の迷宮入りは日常茶飯事で、日本のように警察制度の発達した国に育つた我々にはちよつと判断のつきかねるところが多い国です。しかし大変いい処もあり、例えば人種的な偏見は殆んどなく、白人も黒人も仲よく暮しているところなど全く学ぶべきです。総体にブラジル人は朗らかで親切でまことに人なつこいところがあります。小生など日本に居るとき同じ調子でキャバレーの踊り場に椅子を持ち出し、仰向けに寝て足を天井に向つてバタバタさせ、ポリシヨイサーカスの真似などして見せると、ブラジル人は拍手をして喜んでくれます。地球の裏側まできてすましても始まりませんからね（呵々）生活様式は全くアメリカナイズされているのに、アメリカはここではあまり人気がありません。むしろ日本人の方が人気があります。街など通つてみると、よく子供達が「ジャポネーズ、ジャポネーズ!!」と連呼してくれます。からかつているのか歓迎しているのかよくわかりませんが、シネーズ（支那人）といわないところは愉快です。この国は大変な資源を持つた国で、20年、30年先には大した国になるでしょう。気候はいいし、人情はいいし、ただ教育制度が発展してくればまちがいなく世界工業国のピツグフアイブに入つてきます。でないとう

しても外資や外国の技術に産業を従属させる悲しむべき未来になりかねません。地球の裏側から日本をながめた時、風土風景といい、食物といい、娯楽といい、そして教育の盛んなことといい、物価の安い（ついでに賃金も安い）ことといい、日本ほどいい国はありません。どうか現役の諸君も恵まれた環境の中で、せいぜい勉強もし、練習もして下さい。そして再び黄金の凌泳時代が来るよう御活躍を祈ります。

市大戦戦績補追

回数	28	29
試合日	22・6・14	23・7・14
プール	宝塚プール	宝塚プール
100 自	(神) 浜川 1' 04" 0 (神) 武内 (神) 嘉納	(神) 浜川 1' 11" 0 (神) 奥田 (神) 徳岡
400 自	(大) ? 6' 24" 5 (大) ? (大) ?	(大) 奥田 6' 28" 5 (神) 山本 (大) 寺田
800 自	(大) 山口 13' 18" 1 (大) 奥田 (大) 向井	(神) 浜川 11' 58" 6 (大) 奥田 (神) 中崎
100 背	(神) 武内 1' 25" 0 (神) 浜川 (神) 山越	(神) 徳岡 1' 27" 1 (神) 中崎 (大) 向井
200 平	(神) 中村 3' 20" 3 (神) 鈴木 (大) 高田	(大) 石原 3' 24" 5 (神) 前原 (神) 鈴木
200 継	(神) 浜川、武内、?、?、2' 10" 0	(神) 浜川、奥田、大西、徳岡、2' 10" 6
	(大) ? 2' 19" 8	(大) 石原、梅田、奥田、松村、2' 15" 0
800 継	(神) 浜川、武内、井川、嘉納 11' 19" 6	(神) 奥田、徳岡、山本、浜川、11' 50" 6
	(大) ? 12' 41" 6	(大) 奥田、向井、加賀、松村、13' 53" 7
競泳得点	神戸 74点 大阪 61点	神戸 81点 大阪 53点
水球得点	不明 不明	神戸 0点 大阪 11点

昨年の対市大戦40回記念号にて、その戦績をお知らせ致しましたが、不明のものが多く申し訳なく思っておりましたところ、28、29回の分につき、石井義章様(学22)よりお知らせを載きましたので、謹んでお詫び申し上げますとともに、ここに追補集録致します。なお、表は一位から三位まで順に記しました。

現役部員ベストタイム

6月2日現在

	50m	100m	200m	400m	800m
Free					
野田	33"2	1'14"0	2'38"0	5'46"0	12'34"6
浅間	32"0	1'09"6	2'31"2	5'34"4	12'10"0
米田	36"5	1'20"6	3'03"0	6'45"2	
竹元	42"9	1'34"8	3'37"2	7'40"4	
太田	33"2	1'19"4	2'58"8	6'55"0	14'53"0
荒井	33"0	1'15"2	3'03"0	6'47"5	15'22"0
夏見	31"2	1'11"5	2'53"2	6'32"0	15'36"0
武政	32"0	1'16"4	2'56"7	6'25"7	14'11"8
渡辺	35"5	1'15"2	3'06"0	6'45"0	15'35"0
平岡	37"2	1'22"5	3'10"0	6'57"0	15'35"0
伴		1'20"9	3'30"0	7'40"7	19'09"7
高岡		1'06"6	2'33"0		
Breast					
萩原	42"4	1'28"0	3'14"2	6'99"8	14'39"6
山田	43"2	1'32"6	3'16"0		
染矢	43"0	1'30"8	3'15"4		
丸山	41"6	1'30"0	3'13"6	6'45"0	14'06"0
藤岡	46"0	1'39"0	3'36"2		
林	49"0	1'46"0	3'49"0	8'14"0	
鈴木(剛)		1'39"2	3'43"0		
浅野		1'40"5	3'39"2		
鈴木(正)	54"0	1'48"6	4'11"0	8'51"8	
竹内		1'34"5	3'49"0		
Butterfly					
酒井	38"0	1'29"0	3'06"8		
柳本	42"0	1'32"8	3'12"0		
窪田	42"0	1'36"8	3'25"0		
Back					
井上	38"0	1'21"8	2'58"2		
岡田	42"0	1'30"0			

今年度スケジュール

4月10日	練習開始	
5月3日	総会	
5月7、8日	六甲、姫路合同練習	(姫路分校プール)
6月5日	京阪神三大学大会	(大阪プール)
6月19日	対京大水球戦	(京大プール)
6月26日	第41回対市大戦	(六甲台プール)
7月5日	関西国公立大会	(布施プール)
7月10日	兵庫インターカレッジ	
7月14、15日	全国国公立大会	(神宮プール)
7月20日	関西学生水球選手権	(大阪プール)
7月24日	旧三商大戦	(一橋プール)
8月27、28日	関西インターカレッジ	(大阪プール)
9月12、13日	全日本学生水球選手権	(神宮プール)

編 集 後 記

今年には海外特集版にする予定で、在外凌泳人に原稿をお願いしたのですが、締切を過ぎること一週間の今日まで、遂に北野さんの一通以外は入手できませんでした。御覧の通りの貧弱なものしか出来ませんでした。単えに編集子の無能によるものと深くお詫び申し上げます。

なお名簿の方は毎年調査して正確を期していますが、なお誤記あることをまぬかれないと思いますので、誤りがみつかりましたら御指摘願います。

校正に入る直前、学11平井洋氏からブラジル便りを載きました。お忙しい折から有難うございました。

第 二 章

一、本 章 之 目 的
二、本 章 之 重 点
三、本 章 之 难 点
四、本 章 之 结 论